

平成28年9月14日

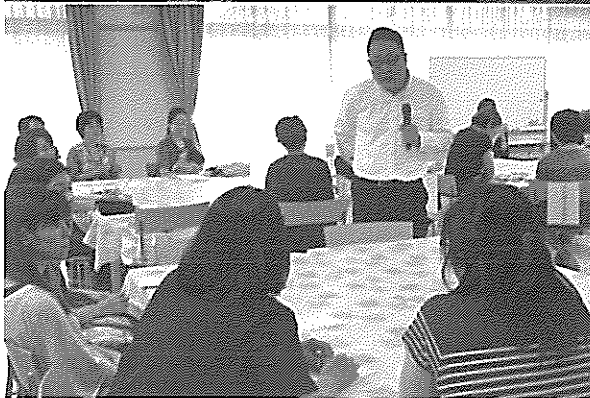
保護者の皆様

世田谷区立給田小学校
PTA会長 林 智美
文化厚生委員長 小林 雅子

第1回 家庭教育学級開催報告

子どものこと、もっと知りたい!～学童期のこころと発達障害について～

- ① 日時： 7月14日 (木) 10:00-12:00
- ② 場所： 給田小学校 ランチルーム
- ③ 講師： 武村 敏弘(たけむら としひろ)先生
- ④ 出席者： 保護者65名・他校保護者1名



7月14日(木)、ランチルームにて、武村 敏弘(たけむら としひろ)先生に「子どものこと、もっと知りたい!～学童期のこころと発達障害について～」をテーマにご講演をいただきました。65名が参加し、他校から出席された方もいらっしゃいまして、このテーマの関心の高さをうかがわせました。講演後の質疑応答では、各テーブルごとに話し合いの後、積極的に質問がありました。裏面にはアンケート結果をとりまとめております。ぜひご一読をお願いします。たくさんの保護者の皆様のご出席、運営へのご協力ありがとうございました。

今回のテーマ「発達障害」は学校でも家庭でも子育てする場において、とても身近にあり
たくさんの方の理解が必要だと思います。
皆さんに講演会の内容を感じてもらいたいので参加していただいた方の多くの意見を載せること
にしました。

講演に参加した感想・意見

- ・ADHD(注意欠如・多動性障害)の映像がわかりやすかった・心にしみた・感動した
- ・問題行動ばかりに目を向けず本人の得意なことを伸ばすことが大切とわかった
- ・本人が「生きづらさを感じている」ことや周りの理解や協力が不可欠であることが理解できた
- ・専門的な知識をわかりやすく説明していただきありがたかった
- ・子どもの1つの個性ととらえられたらと思った
- ・講義を聞いてまず本人を理解してあげること、できるところをほめてあげようになりたいと思った
- ・アスペルガーや発達障害についてよく理解できた
- ・アニメ(ADHD)はとてもありアリティがあり親・子双方が悩んでいると痛感した
- ・発達障害についてもっと多くの人に知ってもらい理解を深めていけたらと思いました
- ・本人の力が出せるような言葉かけ、接し方が大切ということが印象に残りました
- ・障害は誰にでもある「生きづらさ」としてとらえ、良いことに目を向ける、障害があってもなくても
そんな対応を心がけたいと思った
- ・自分の子どもにも怒るばかりでなくできることを大切にしたいと思った
- ・正しい理解を親だけではなく子どもにも伝えるべきではないかと思った
- ・子どもを褒めるのが苦手という自分の悩みにもアドバイスをいただけたと感じた
- ・療育の必要性が理解できた
- ・子どものことで壁にぶつかっている時期なので今後の家庭での教育に役立てたい
- ・接する時にはアイコンタクトやオーバーアクションが効果的ということ学びました
- ・息子のクラスに補助の先生がついている子がいますがその子に対して理解と対応の仕方を
深めることができた
- ・ADHD(注意欠如・多動性障害)自閉症などの学校での対応の仕方をもっと詳しく知りたかった
- ・小・中学生の具体的なケースを聞ければ尚よかった
- ・質疑・応答の時間がもっとあればより聞きたいことを聞けたと思う
- ・話の内容が幅広かったのもう少し具体的に教えていただきたかった
- ・全体的に専門的な用語が多くわかりづらいつらいつらあった
- ・グレーゾーンの話をもっと聞きたかった
- ・自分の子どもが発達障害と認めたくない親にどう話せば理解してくれるかなどの対応策を
もっと聞きたかった

要望

- ・幼児の声が気になったのでその対応をしてほしかった
- ・先生方に聞いてほしい内容でした。ぜひ先生方の研修をお願いします

今後、開催してほしい講演

- ・発達障害について(実践編)
- ・思春期とこころのバランスについて
- ・子育てと介護について
- ・思春期の子を持つ親の心得や接し方
- ・こころの病気について
- ・発達障害の子を療育している方の話が聞きたい

たくさんのご意見・ご感想ありがとうございました。